

世界旅打ち気分

●第79回・ハラス・フィラデルフィアとミナングル

須田鷹雄



写真1) クレーンをバックにレースが展開される



写真2) ミナングルでのレース風景



写真3) ミナングルのミュージアムコーナー

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載では複数の競馬場を扱うときには基本的に同じ国の競馬場を対象としているが、今回は「ハーネス」という括りで、アメリカとオーストラリアから各1場をご紹介します。

アメリカからご紹介するのが、ハラス・フィラデルフィア。名前の通り、フィラデルフィアにある競馬場だ。街の中心部から西に向かうと空港があるが、さらに西へ行ったらある。空港出入りの際に隣接するホテルに泊まると、そこからタクシーやレンタカーでアプローチしやすい。

行ったときにはつきり昔からある競馬場をハラス社（現在はシーザーズ社と合併したカジノ運営会社）が買って複合施設化したのだと思っていたのだが、後から調べてみると2006年9月に開場した、新しい競馬場だった。もともとはデラウェア川を行き来する貨物船に荷物を積んだり下ろしたりする、荷役会社の作業場だったようである。

いまでも隣には別な荷役施設があり、周辺は日本という港湾地区の色彩が強い。競馬場の北西側には刑務所があり、その間には近所

の工場が終点となる貨物専用の線路が走っている。一応近所には大学や住宅地もあるのだが、周辺を歩く用事はないし安全性も微妙なところである。基本的に昼間開催のみなので、車で行って帰ってくるだけなら危険ということはないだろう。

一方で港湾地区ということだが、独特な風景を生み出している。スタンドからコース側に出て左を見ると荷役施設があり、そのクレーンをバックに馬が走る形になる。これは他場にはたまらないものがあるのではないだろうか。いまはナイター開催をしていないがかつては実施しており、照明もある。夜のレースはまた別な雰囲気になるだろう。大晦日だけは1レースが16時なので、最後のほうはナイター風になっているかもしれない。

この競馬場はハラス社が作ってその名を冠しているくらいだから、併設されているカジノがメインとなる。1500台以上のスロットマシンとビデオポーカーが設置され、テーブルゲームにはブラックジャック、ルーレット、クラブスなど

がある。2019年からはスポーツブックもスタートした。

このようにカジノが盛り上がっている競馬は切り捨てられがちだが、ハラス・フィラデルフィアは25年実績で年間126日の開催を実施しており、以前よりやや減ってはいるが競馬の規模も維持されている。なんとかこのまま競馬のほうもキープしてほしいものである。ちなみに開催日程はイレギュラーだが、4月から12月まで日・木・金を中心に行われている。

フィラデルフィアはMLBのフィリーズがあるし、サフレッドの競馬も主要場と呼んでよいPARXがある（こちらもかなり大規模なカジノを併設している）。薬物問題でよく話題になるケンジントン地区など恐ろしく治安が悪いエリアもあるが、日本人にとって全く用事がない。ニューヨークとの間は列車も利用できる。アメリカ渡航の機会があったら、ぜひ競馬のスケジュールも調べてみていただきたい。

今回2つめにご紹介するのは、オーストラリアのミナングルパーク競馬場だ。いまは馬券発売会社のTABがネーミングライツを取得

し、「TABコープ・ミナングル」と呼ばれることが多い。

この競馬場は1914年の開場となかなか歴史が古い。初期には普通の競馬も行われたそうだが、後に速歩専門の競馬場となった。

90年代には調教に主眼を置いた施設となり、競馬開催はシドニー中心部にあつたハロルドパークで主に行われた。ところがハロルドパークの廃止が決まり、ミナングル競馬場が大改修されることになった。もともとは1周800mだったそうだが、いまは1400mとなっている。

現在はNSW州のハーネスレースにおいて中心的な役割を果たしており、開催日数も週2ペースと多い。月による違いはあるが、火曜に日中開催、土曜にナイター開催が行われることが多い。

ミナングル競馬場の良いところは列車で行くことができるので、海外でレンタカーを使えない人でも行きやすいということだ。競馬場のすぐ脇に「ミナングルパーク駅」（競馬場はミナングル公園の中にある）という駅がある。2面2線のごく普通の駅だが、シドニーのセン

トラル駅から向かうことができる。残念ながら直通列車はほとんどなくキャンベルタウンという駅で乗り換えになるが、この乗り換えがスムーズだと1時間15分、悪くても1時間30分で着く。シドニーとキャンベルタウンの間にシドニー空港があるので、例えばシドニー中心部のホテルをチェックアウトしたあと空港に行つて手荷物預かり所に荷物を預け、そのままナイター開催へ帰りは空港で荷物をピックアップして夜便に搭乗、というようにすることができる。

このミナングル競馬場は前述の改修からまだ20年経っていないので、施設は現代風で機能的、そのかわりに「味」はあまりない。ただ、必要なものはきっちり揃っているし、施設がコンパクトなぶん初訪問でも全体を把握しやすい。

良いなと思ったのは、「ミュージアム」という一角を設けていることだ。古いトロフィーや写真を飾っている競馬場はよくあるが、ミナングルはスタンド下の通路両脇がすべて展示スペースになっており、写真に示したように展示品の数も多い。

ハロルドパークが廃止になってし

まったというのはNSWのハーネスファンにとってかなりショックなことだったはずだが、そのハロルドに関する展示もある。

ミナングル競馬場では総賞金が2億円近い「TABユリカ」というレースや、67年創設の「ミラクルマイル」といった大レースがあるが、後者は走破タイムによってボーナスが出ることもあるタイムにフォーカスしたレースで、過去の優勝馬をタイムによって分かりやすく展示した一角もある。

オーストラリアの競馬場なのでバーはもちろんあるし、食べ物売店もスタンドの中にしっかりとある。バーガー類のほかにフイッシュアンドチップス、ステーキ、チキンシニョツテル（チキンカツのようなもの）、さらにはカレーライスマもある。

筆者が行ったときには55歳以上のみを対象として、いわゆるピュッフェ（ドリンクが付いた30ドルの食事会なども開催されていた。向こうでも現地観戦は高齢者中心になっているので、それに対応したものだろう。主催者がしっかり考えて運営している競馬場という感じで安心感がある。